

令和4年度 大阪府障がい児等療育支援事業 地域別交流(研修)会

# 子どもの発達を保障する 生活と仲間づくり ー 学童期を中心に ー

川地亜弥子(神戸大学)

[kawaji@port.kobe-u.ac.jp](mailto:kawaji@port.kobe-u.ac.jp)

2022年12月6、9、13日  
於 クレアホール・ふせ 1階ホール

# 自己紹介にかえて:私の職場

## 「研究し交流する場としてのキャンパス」

(「応用心理学のクロスロード」13号より)

### <交流する——エコールKOBEと>

福祉事業型専攻科エコールKOBE(18歳以上の青年が2年間通う学びの場)の学生との交流(岡本正、河南勝、渡部昭男編著(2013)『福祉事業型「専攻科」エコールKOBEの挑戦』クリエイツかもがわ)

### <共に学ぶ——Kobe University Program for Inclusion: KUPI>

障害がある人たちの生涯学習の権利を保障しようと、知的障害がある人たちへの学びのプログラムを2019年度に開始。仕事の後に学べる場。

KUPIについて <http://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/KUPI.html>

### <働く・運営する ——カフェ・アゴラ>

大阪湾と神戸の街並みを一望できる6階にある。実習生の職業訓練の場、対人支援に関心をもつ学生の実践の場。

カフェの運営は、教職員、学生、スタッフ、実習生で議論しながら行う。

カフェ・アゴラについて [www2.kobe-u.ac.jp/~zda/agora/agora-index.html](http://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/agora/agora-index.html)  
([kobe-u.ac.jp](http://kobe-u.ac.jp))

# 1 子どもの発達のみちすじ

- 人間発達の理論(田中1996)をもとに
- 子どもの目標を「制限」するものではない。  
「何なら楽しいだろう？」と仮説をたてられる  
便利なツール、めがねとして

# 幼児期から学童期へ — 二分的な世界を抜けていく —

- ○×、大小、できる-できない、  
...たっぷり支えてもらう  
思いを代弁してもらう  
甘えたい（友達の前では恥ずかしい）
- ~シナガラ~スル、~シテカラ~スル  
生活の充実
- 自励心（単なるガマンじゃない。自分の考えを尊重されること、頼りになる人と一緒にチャレンジして、助言を得たりして工夫し、よき終わりを経験すること、それが積み重ねられていることが大事。）

# 幼児期～学童期～思春期

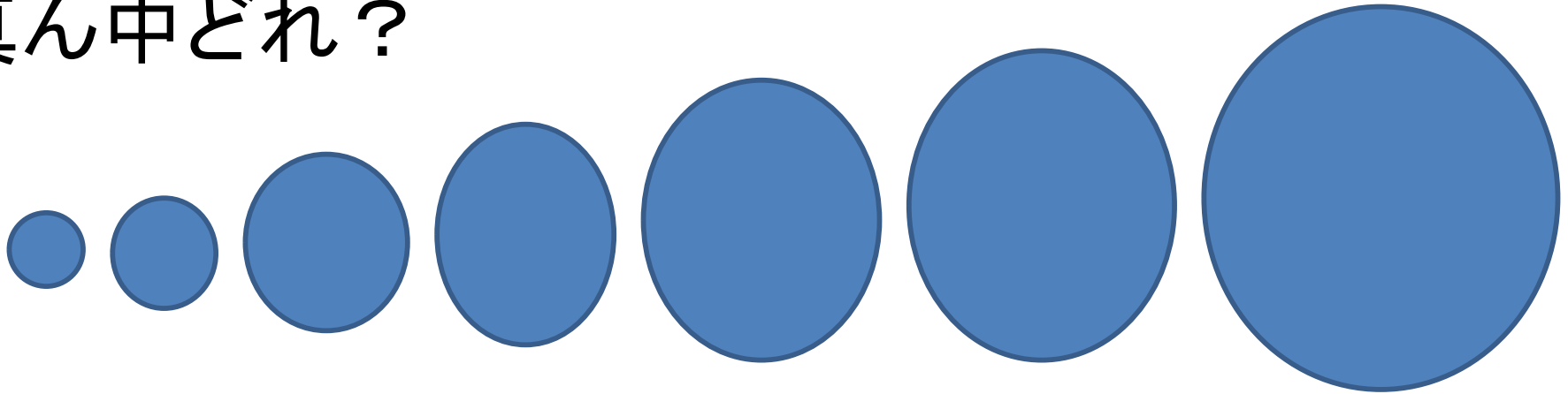
- 5歳半頃 生後第3の新しい発達のための誕生
- 7, 8歳頃 人格形成において支えが重要
- 9, 10歳頃 次元可逆操作の階層から変換可逆操作の階層への飛躍的移行期  
「9・10歳の節」
- 11-13歳頃 人格形成において支えが重要
- 14歳頃 生後第4の新しい発達のための誕生  
→ 創出可逆操作の階層へ

# 新しい発達のための誕生

- 5歳半 生後第3の新しい発達のための誕生  
「ことわり(理)知り初めし力」  
自分なりの理由をしっかりと伝える

# 円系列課題

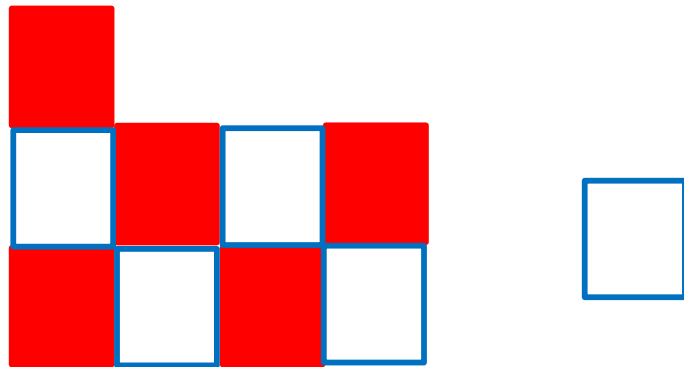
一番大きいのもどれ？ 一番小さいのもどれ？  
真ん中どれ？



一番真ん中どれ？

4歳頃「考えたし」 5歳半以降「4と4やから」

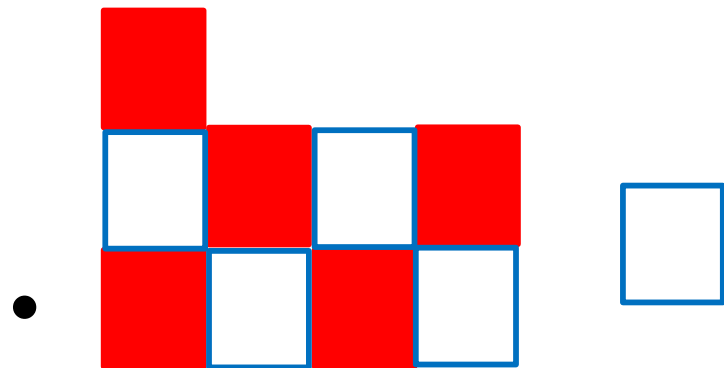
# 生後第3の新しい発達のための誕生 (5歳半頃)



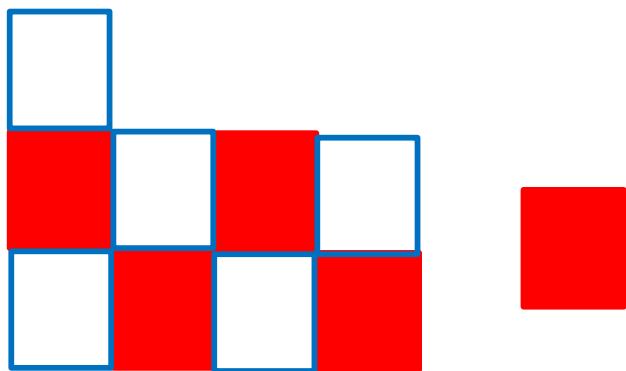
- T 「同じのつくってね」と言って  
赤の積み木5個、白の積み木5個を渡すと...



# T「同じのつくってね」



T「同じになった？」



「ウン、オナジ！ダッテ...」

# 自分なりの論理だけでなく 少し視野が広がって

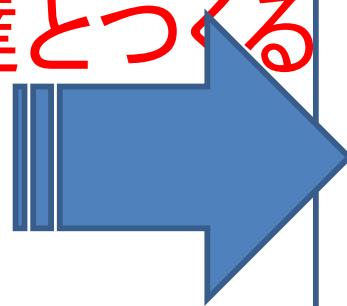
- 7, 8歳頃 改めて大人の理由に目を向ける  
「なんでおこるんやろう」  
(反抗しているわけではなく)  
どっちの思いも入れていこうとする
- 自分の思いを受けとめてもらえないときには、  
他の人の思いも受け入れにくい

# 第3の世界を豊かに

- 第1の世界(家庭)、第2の世界(園・学校)  
ルール(4歳頃から)の自分なりの理解と  
自分をくぐらせた理由の理解(7歳頃から)
- 第3の世界(友達とつくる世界)  
自分なりの考えと理由(5歳半頃から)

- 第1の世界(家庭)、第2の世界(学校や学童でのルールと理由)

- 第3の世界(友達とつくる自分なりの考え)



学校や学童での  
ルールの創造

↑ 両方行き来

↓ (9,10歳)

遊びの世界(独自  
ルール)の創造

個人の思いや状況  
の違いをうまく組み  
入れて...(高学年)

# 思春期から青年期にかけて(仮説)

- 課題設定そのものに抗することができる  
(新しい発達のための誕生の時期の特徴)
- 選ばせようとすることに抗することができる  
ハインツのジレンマ... どっちかを



## 2 大人よりすごいぞ！

大人を負かしたい なぞなぞ、ジャンケン...  
(理由・ルールを自分なりに説明できる)

(日記) 一年 よしお

せんせい、あのね、

きょうたたきれんこんをしました。だいどころでれん  
こんをめんぼうでたたきました。おかあさんがめん  
ぼうでれんこんをたたいたらうまくわれなくて、ぼく  
がすると、うまくわれました。たたきれんこんおいし  
かったです。

## 2 大人よりすごいぞ！

(日記) 一年 よしお

せんせい、あのね、

きょうたたきれんこんをしました。だいどころでれん  
こんをめんぼうでたたきました。おかあさんがめん  
ぼうでれんこんをたたいたらうまくわれなくて、ぼく  
がすると、うまくわれました。たたきれんこんおいし  
かったです。

(下線は先生、赤の波線で)

(先生の赤ペン)じょうずにれんこんをたたいたん  
だね。よしおくんがつくったから、おいしかったんだ  
よ。

### 3 ぼくってすごい

視野の広がり、地道な努力。自分に「すごい」と思えることの意義を子どもたちに語る。

ぼくってすごい

2年 知洋

きょう、かけざんで  
六のだんだった。

そして、家で  
かけざんを言ったら、  
なれてきて、  
六のだんを教科書を見ないで、  
できた。

じぶんでも、びっくりした。



## 4 むなしいこともある

むなしいけんどう 2年

きょう、けんどうにいった。まえ ゆうたくんが  
上きゆうに 上がったから、きょうは のこりの お  
かむらくんと 山本ゆうと ぼくだ。のこりの 4人に  
なって、とても むなしいな。こえもむなしい。げん  
きもむなしい。なにもかもが とってもむなしい。

...「すごい」こともあるけど「むなしい」こともある。  
それを書き、語り、心を寄せていくことができる。

## 5 友だちの心を深く想像して

かすがの小学校で  
きんちょうしてるんや  
2年 かずのり

つくえ、小さいかな。  
大きいかな、ふつうかな。  
かすがの小学校の二年  
の一時間目は  
作文やったら、  
いいのにな。  
たみこちゃん、



ぼくらのことを書くかもしれ  
ないし。  
たみこちゃん、  
二年三組の みんなの  
ことで なかんといてや。  
さみしいし、  
なかんといてや。  
ぜったいやで。  
みんなの名前とか  
わすれないでね。

# かずのりくんはどう考えたのだろうか？

- 転校する→ 自分にあった机や椅子があるかどうかわからない
- 作文の時間だとぼくらのことを思い出してくれるかもしれない
- でも、知らない人ばかりの中で、仲の良かった前のクラスを思い出したら、泣けてくるかもしれない
- たみこちゃんが泣くのはかなしい、だけど自分たちのことは忘れてほしくない

## 6 「やんちゃ」な4年生

### ...でも一人ひとり違う(得丸浩一実践)

(日記)無題 小4 かずや

ぼくは、きのう水木さんが、  
「かぎない。」

といたので、ぼくと吉田さんが水木さんのいえへいって、なおそうとしました。

さいしょ、はりがねとかさのほねであけようとしてしました。しっばいしました。

そのあと、二くみのはせがわさんのおばあちゃんが、「いえのベランダからたけちゃんのベランダにとぶか。」といたので、とびました。

そのあと、水木さんがとんだけど、おちそうになりました。

そのあと、二人できょうりよくして、ぼくがモップのスリッパをとおくになげて、そのときに水木さんがかぎをあけました。

もう一回かぎがなくなったらとびたいです。

### ○一緒にいた、だいちくんの日記の最後○

...もう水木さんにかぎをなくしてもらいたくありません。

### ○かぎをなくしたたけしくんの日記の最後○

...時計を見たら五時をまわっていたからびっくりしました。／ほんとうにつかれました。

# 同じ場面でも思っていることが 全然違う

- 自分にとってはおもしろいこと、もう一度やりたいことでも、他の人にとっては違うことがある
- そのことが、4年生頃になるとよくわかってくる
- 「自分がされて嫌なことはしない」という指導では不十分な時期
- 自分の思いをきいてもらい、相手の思いを想像する時間をもつことの大事さ(自分の思いを出せない状況で、相手のことを考えなさいと言われても難しいことがある)

# 7 一緒に失敗できるなかま

おこられたおふろ 小4 とおる

ぼくは、一日目、おふろはいるじかんになって、おふろのところにいったら、たこやき(高木くん)がいて、おふろにはいいのってきいたら、いいんちゃうとゆったので、ぼくとたこやきがはいったら、いっぱいはいってきて、およいでいたりしていると、田中先生がきて、フルチンでおこられました。五、六にんぐらいでおこられました。田中先生のメガネがくもっていました。メガネをふかはったけど、またくもりました。

ぼくは、フルチンで、一番前にたっていました。おこられたけど、みんなでわらいました。おこられたけど、おもしろかったです。

二日目のよるは、はいっていいと、とくまーる(得丸先生)にきいてはいりました。小よくじょうです。五人ではいっていました。きのうのことをおもいだして、またみんなでわらっていました。

おもしろかったです。

※ 前の学校で、とおるくんはさまざまなトラブルを引き起こす子どもとされている節があったが、本当にそうなのだろうか？



## 8 ゆうきがあるなあ

小4 ゆりか

今日わたしは、中田さんはゆうきがあるなあと思いました。

そのわけは、今日の四時間目、先生が中田さんと高島さんと月おかさん[※あみ、りか、あかりの3人]がちょっとなかがわるいことについて話をしました。三人ともそのことを作文にかいていて、とてもゆうきがあるなあと思いました。すごいです！

# 思いを出すことは簡単ではないことが わかるからこそその共感

- けんか・もめごとについて、正面切って不満を出すことは、「みんなからどう思われるか」「相手からどう思われるか」ということが想像できる時期だからこそ難しい。
- そこを乗り越えて言う・書くことのすごさ
- 「ちょっと」という表現にも注意が必要（文字通り「ちょっと」と理解するのではなく、むしろ「とても」「実は」などと理解した方がしっくり来ることもある。）

# 「思いの可逆操作」(楠凡之)が できるからこそ

- 本音ではなく「どう言ったら相手を傷つけないか」「どう言ったら相手が喜ぶか」を考えてしまう
- 気づかいの世界は疲れる...  
だからこそ、本音を言える人が大切
- 先生、友達... 頼りになる大人の出番

## 9 よしとくんの場合

- アスペルガーを含めた自閉スペクトラム症の疑い、という診断
- 小4の時には自傷行為・他傷行為、昼夜逆転、潔癖、偏食。年間153日欠席。(お姉さんの日記参照)
- 4月の日記「はらへった。なんか、おもしろかった。」
- 小5で欠席が100日を切り、学校で友達ができた。  
(休んでも放課後遊びに来てくれた。  
👉「わいわいにぎやかでむっちゃ楽しい」クラス、  
思いっきり「偏食」できる給食、おもしろい授業
- 小6の作文、国語  
「書くことないからまた今度」  
「思いつかん 小松はいつも 無理を言う」  
(小松伸二『学級の困難と向き合う』)

# おねえさんの日記(参考)

(姉の日記、題はついていない)

六年

今日の夜、また、まん中の弟が下の弟とけんか(というよりぼ  
うりょく)してて、近所めいわくになった。(あ～あ、せっかくテレビ  
を見てんのに聞こえへんやん。)と、のんびりとテレビを見てい  
て思った。(毎日、毎日、あんたたち二人でばかなことしてんの。  
なんでこんなのがいるんだか・・・。)と思った。

「お父さん、それ、むこうやって、聞こえへんやんか。」

と、わたしは下の弟をかばっているお父さんに言った。

「M(下の弟)、むこういくで。」

と一回言っただけで何もしてくれなかった。まん中の弟が物をな  
げはじめた。

「お母さんもうるさい！」

と弟が言い、お母さんに物をなげた。その物がわたしのひじにあたった。(なんなんこいつ！)と思い、立って弟に近づいたら、いすをもちあげてなげようとしたのをお母さんがとめて、「むこう行きな！」

と何回も言った。(うちにはストレスかいしょうさせてくれへんの?)と思ったけど、とめられたし、行こうとしてもとめるし、おなかの調子がよくなかったから、二階に行った。

ボタン・・・とへやの中に入ってふとんにたおれた。

「……。」

なんか、ポロポロなみだが出てきて、(なんか声出そう……。)と思った。(声のでるのって、くやしいとかのときか、ひさしぶりに声が出そうなき方する。)と思った。

あ～あ、おなかがいたい、ぐつぐついつてる～、むりしたかな～と思い、明日のじゅんびをしてねた。

# 友達と楽しい経験を持つこと、それを振り返ることの意義

楽しかった五、六年      6年 よしと(1月)

五、六年は楽しかった。とくに友だちと遊んだりしたのが楽しかった。学校で、サッカーやキックベースをしたり、ほうがご、よくだれかの家にいって、ゴロゴロしたりして遊んだ。五、六年になって、それまでのクラスとはなんかちがっていた。とにかく、このクラスはおもしろかった。いつも、男子が女子にちょっかいをかけて、女子においかけまわされて、最後に男子はたたかれていた。ぼくも、おいかけまわされ、たたかれたことが何度かある。それも、とってもいい思い出の一つだ。

修学旅行は、みんなでトランプをしたり、まくらでなぐりあったり、いろんな話をしたり、朝までさわいでいた。これもわすれられない思い出だ。

六年生のとき、大文字駅伝の予選会の練習で、うんどうじょう十周を毎日走ったのはつらかったけど、出場して楽しかった。はじめのころは、出ようかまよったけれど、出てよかったと思う。

五、六年生のときのたんになの先生は、こまっちゃんだった。おもしろい先生だなあと思った。こまっちゃんは、よく作文を書かせたけど、ぼくは作文を書くのがきらいだった。

五、六年生のときが一番楽しかった。

# おかあさんの手紙への感想

小6 よしと

長い文しょう書いたなあ～。

いろいろはげましてくれてありがたいけど、これからがんばれるかはわからない。

けれど、できるだけがんばりたい。とりあえず、いろいろがんばりたい。

**た**まに、ありがとうと思うときがある。

…「いつも」とは書かないが、それもよしとくんらしいところ。



# 10 偏食指導は 人間関係を食べている

白いご飯しか食べられないたつやくん  
思いっきり偏食できる関係

「さつまいも」の一言を読み解く

... 今まで食べられなかったさつまいもが、とうとう食べられた、という思いがこもった言葉。

... 食を通してお互いの関係が深まっていく。

“読み解けば見えてくる”

大人の側にも「思いを読みとく」努力が必要。

# おわりに

- もっともっと輝きたい
- 大事な人に心を寄せる  
...自分の気持ちも出せるように  
気持ち(心の声)を丁寧に聴く
- なかまと一緒に遊べる場所の大事さ
- 一緒に生活(ルールなども含めて)をつくること  
の大事さ

# 参考文献1

糸賀一雄研究会著、渡部昭男・國本真吾・垂髪あかり編『糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる』三学出版、2021年。

垂髪あかり『〈ヨコへの発達〉とは何か 障害の重い子どもの発達保障』日本標準ブックレット、2020年。

勝村謙司『続 こころの作文』かもがわ出版、2021年。

川地亜弥子「ねがいひろがる教育実践」『みんなのねがい』2021年4月～2022年3月（連載）。

⇒川地亜弥子『子どもとつくるわくわく実践—ねがいひろがる教育・保育・療育』全障研出版部。

川地亜弥子「9・10歳の節と学校の役割」『教育』2022年12月。

京都教職員組合養護教育部編『子どもの発達と健康教育②』かもがわ出版、1988年（田中昌人氏の講演記録。）

越野和之『子どもに文化を 教師にあこがれと自由を』全障研出版部、2019年。

越乃和之・全障研研究推進委員会『発達保障論の到達と論点』全障研出版部、2018年。

小松伸二『学級の困難と向き合う—持ち味を生かした学級づくり』かもがわ出版、2015年。

国分一太郎『新しい綴方教室』日本評論社、1951年。

# 参考文献2

『障害者問題研究』第49巻第3号、2021年、特集「教育実践における教材について」  
白石正久・白石恵理子編『新版 教育と保育のための発達診断 上・下』全障研出版  
部、2020・22年。

全障研兵庫支部編、河南勝、木下孝司、赤木和重、川地亜弥子『実践、楽しんでま  
すか？ 発達保障からみた障害児者のライフステージ』クリエイツかもがわ、2017年。  
別府哲「自閉スペクトラム症と9歳の節」『障害者問題研究』48巻2号、2020年、  
pp.98-105。

鳥取大学附属特別支援学校『七転び八起きの自分づくり 知的障害青年期教育と高  
等部専攻科の挑戦』今井出版、2017年。

なにわ作文の会編『ぼくも書きたいことあるねん』本の泉社、2010年。

なにわ作文の会編『教室でいっしょに読みたい綴方—子どもたちの作文・詩』フォーラ  
ム・A、2016年。

奈良教育大学付属小学校編『みんなのねがいでつくる学校』クリエイツかもがわ、  
2021年。

三木 裕和、越野和之、障害児教育の教育目標・教育評価研究会編著『障害のある  
子どもの教育目標・教育評価』クリエイツかもがわ、2014年。

同 『自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価1・2』クリエイツかもがわ、2019年。

村山士郎編『村山俊太郎 生活綴方と教師の仕事』桐書房、2004年。